

令和4年8月19日  
北九州空港機能強化・利用促進特別委員会  
港湾空港局空港企画課

## 目次（説明/報告）

- 1 県・市が連携した北九州空港の取組みについて
- 2 北九州空港に係る国への要望活動について（報告）

## 県・市が連携した北九州空港の取組みについて

### 1【前回・昨年度】市議会による県議会への要望内容と状況

#### (1) 強化期間の継続

福岡県と本市が連携して取り組んできた「将来ビジョン推進強化期間」や「ネットワーク充実強化期間」においては、北九州空港への新規路線の就航、利用者数の増加など多大な成果を収めてきました。

現在の「ネットワーク充実強化期間」は今年度末で終了予定ですが、引き続き空港や航空会社を強力に支援していく必要があることから、来年度以降も「強化期間」を継続してくださるよう強く要望します。

#### 強化期間を継続

- 令和4年度から3か年を「ネットワーク再構築推進期間」として連携強化を継続。

#### (2) 各種支援策に係る予算の確保

現在、北九州空港への旅客・貨物便の誘致等に当たっては、福岡県と本市が協力して各種支援策を実施しています。

これらの支援策は必要不可欠であることから、新型コロナウイルス感染症対策に係り、福岡県においても厳しい財政状況にあるものと考えますが、引き続き、当支援策に係る予算を確保してくださるよう要望します。

#### 各種支援策に係る予算を計上

- 運航助成・重量助成・福北リムジンバス運行など、旅客・貨物・アクセスの支援に取り組む。(福岡県の助成予算 令和4年度:656百万円、対前年度 82百万円増)

#### (3) 国際旅客便支援の強化

旅客路線については、コロナ禍の影響により北九州空港への就航路線・利用者数が大幅に減少しており、これらのV字回復を図るためには、さらなる支援の強化が必要です。

ついては、コロナ収束後、早期の航空ネットワークの再構築を強力に進めるための支援を強化してくださるよう要望します。

#### 運休路線の復便に係る支援を強化

- 運航助成について、復便も新規路線と同等の取扱いとし、改めて3年間支援に取り組むとともに、基本助成額を増額している。

#### (4) 国際貨物便支援の拡充

北九州空港の貨物拠点化を推進し、滑走路延長を実現するためには、国際貨物の需要拡大の動きを捉え、国際貨物取扱量を着実に増加させていくことが大変重要です。

ついては、3年連続で過去最高の取扱量となっている国際貨物の取扱量を更に増加させ、航空貨物路線の維持、拡大に係る支援を拡充してくださるよう要望します。

#### 航空貨物路線の維持、拡大に係る支援の予算を拡充

- 重量助成、運航助成について、国際貨物定期便への支援を拡充。(福岡県の貨物関係予算((2)の内数) 令和4年度426百万円、対前年度71百万円増)

## 1-1 県・市連携強化の取組み

〈旅客・貨物取扱量の推移〉



県と緊密な連携のもと強力に推進

旅客：北九州空港ネットワーク再構築推進期間 (R4~R6)

貨物：貨物拠点化推進強化期間 (R3~R5)

### 取組みの継続

〈旅客：ネットワーク再構築推進期間〉  
令和4年度からの3か年をコロナ禍からのV字回復を図る「強化期間」として位置付け、復便を促進する支援を行うなど、県市協働で旅客路線誘致や路線定着に取組む。

〈貨物：貨物拠点化推進強化期間〉  
令和3年度からの3か年を貨物取扱「強化期間」として位置付け、貨物定期路線の定着と拡充を進めるため、更なる集貨促進、通関体制の構築、上屋機能の強化など、ソフト・ハード両面に取組む。

## 1-2 県・市連携事業及び予算(当初)規模

(単位：千円)

区分	事業項目		令和3年度		令和4年度	
			負担	予算額	負担	予算額
旅客誘致・集客	協議会	県・市 ・ 運航助成	県	181,698	県	192,154
	連絡会	市・苅田 ・ 空港施設賃料等助成 ・ ハンドリング機能強化事業 ・ チャーター助成 ・ 集客PR	市	98,738	市	73,134
貨物	協議会	県・市 ・ 重量助成 ・ 着陸料等助成(運航助成) ・ 通関体制促進助成	県	355,115	県	426,347
	貨物協	市・苅田 ・ 横持助成 ・ チャーター助成 ・ 半導体サプライチェーン構築促進助成(R4~) ・ 物流事業者等進出促進助成(R4~)	市	315,900	市	441,900
空港アクセス	県		県	37,427	県	37,427
	アクセス協	市他 ・ エアポートバス ・ 定額タクシー	市	195,500	市	244,400
合計			県	574,240	県	655,928
			市	610,138	市	759,434

※令和4年度予算における国際線関連の旅客誘致集客について、市では補正予算で調整することとしている

## 2 令和5年度における連携強化事項

### (1) 強化期間における予算の確保

- ・北九州空港の利用促進に対する各種支援策の予算確保

(理由)

福岡県と本市が連携して取り組んできた「将来ビジョン推進強化期間」や「ネットワーク充実強化期間」において、新規路線の就航、利用者数の増加など多大な成果を収めてきた。

現在の、ネットワーク再構築推進期間、貨物拠点化推進強化期間において、旅客のV字回復、貨物拠点化の推進に向けて、引き続き、県・市が連携して、旅客・貨物・アクセスなど各種支援策に取り組む必要があるため。

### (2) 国際旅客便支援の拡充

- ・国際旅客定期便再開につながるチャーター便の運航支援

(理由)

航空会社のニーズとして、定期便の就航を検証するために、まずは需要把握のため、連続チャーター便での就航（再開）が想定される。ついては、連続チャーター便の実績（利用率）の確立によるその後の定期便化に向け、県・市が連携してチャーター便の支援に取り組む必要があるため。

### (3) 国際貨物便支援の継続

- ・航空貨物路線の維持、拡大に係る支援

(理由)

北九州空港の物流拠点化に向けて、今年度と同程度の予算を確保し、引き続き県・市が連携して国際貨物路線の支援に取り組む必要があるため。

### (4) 新規貨物便支援の拡充

- ・ヤマトグループ・JALグループによる新たな貨物定期便の就航に向けた支援

(理由)

首都圏と九州を結ぶ拠点として北九州空港への就航が予定されており、来年度から、就航に向けてトライアル運航や体制づくりが本格化する。

円滑な就航に向けてトライアル運航などの準備も含めて、県・市が連携して支援に取り組む必要があるため。

## 北九州空港に係る国への要望活動について（報告）

### 執行部による要望活動

#### 1 国に対する提案

- (1) 実施日 令和4年8月3日（水）
- (2) 提案先 国土交通省（主要幹部）  
福岡県選出の衆議院・参議院議員
- (3) 提案者 市長、副市長、港湾空港局長等
- (4) 提案内容 ○滑走路延長の早期事業化・早期供用に向けた協力  
○物流拠点機能の向上に向けた協力  
○新門司沖土砂処分場（3工区）の活用に向けた協力  
○新型コロナウイルス感染症の影響を受けた航空業界への支援

## 北九州空港の機能拡充・活性化に向けた支援

(国土交通省)

北九州空港の機能拡充・活性化に向けて、次の事項を提案します。

- 1 滑走路延長の早期事業化・早期供用に向けた協力
- 2 物流拠点機能の向上に向けた協力
- 3 新門司沖土砂処分場（3工区）の活用に向けた協力
- 4 新型コロナウイルス感染症の影響を受けた航空業界への支援

### (提案理由説明)

北九州空港の機能拡充を通じて国内国際の航空ネットワークの形成・充実を図ることは、ものづくり産業の集積が進む北部九州圏の経済活性化のために必要不可欠であり、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により減衰した我が国の経済回復に寄与するとともに、国の「経済財政運営と改革の基本方針」等に盛り込まれた施策の実現に資するものと考えています。

そのため、本市では「九州・西中国の物流拠点空港」を目指し、路線誘致や集貨・創貨、機能強化の取組みを積極的に進めています。

令和3年度は、大韓航空による貨物定期便が週3便から4便へと増便されたことや、海上空港で岸壁を有する北九州空港の特長を生かしたシーアンドエア輸送を実施したことにより、国際貨物取扱量は、前年度の約1.4倍となる4年連続過去最高を更新し、約1万9千トンを記録しました。

更に、ヤマトグループとJALグループが共同し、令和6年4月より貨物定期便を就航することを発表しました。

このような目に見える成果が着々と積み上がってきており、物流拠点化への取組みが加速する好循環サイクルが実現しつつあります。

### 1 滑走路延長の早期事業化・早期供用に向けた協力

北九州空港の滑走路延長については、環境アセスメントなど、新規事業化に必要な手続きを着実に進めていただいております。深く感謝申し上げます。

滑走路延長は、北九州空港の物流拠点化に不可欠な機能強化であり、実現すれば、九州・西中国の経済発展へ大きく寄与するものと考えます。

日々拡大している航空貨物の需要を取り逃さないためにも、早期事業化・早期供用に向けて一層の協力、推進をお願いします。

## 2 物流拠点機能の向上に向けた協力

現在就航している貨物定期便や生体牛馬チャーター便に加え、令和6年4月からのヤマトグループとJALグループ共同による貨物定期便が就航すると、既存の2つの貨物機用スポットだけでは不足するため、貨物機の三機同時駐機と荷役対応が可能となる拡充整備を提案します。

また、北九州空港の特長を生かしたシーアンドエア輸送は、事業者からも大変高い評価をいただいています。

一方で、貨物機用エプロンから岸壁までの動線は幅員が狭く、かつ直角の曲がり角が貨物移送時の支障となることから、航空貨物の円滑な積替えを可能とする直線的な輸送経路の整備の促進をお願いします。

## 3 新門司沖土砂処分場（3工区）の活用に向けた協力

現在、空港島には国が関門航路などの浚渫土の埋立処分場として新門司沖土砂処分場（3工区）を有しています。この処分場の面積は70ヘクタールと広大で、その全域が北九州市域に含まれており、近い将来、利活用可能な新たな土地が造成されます。

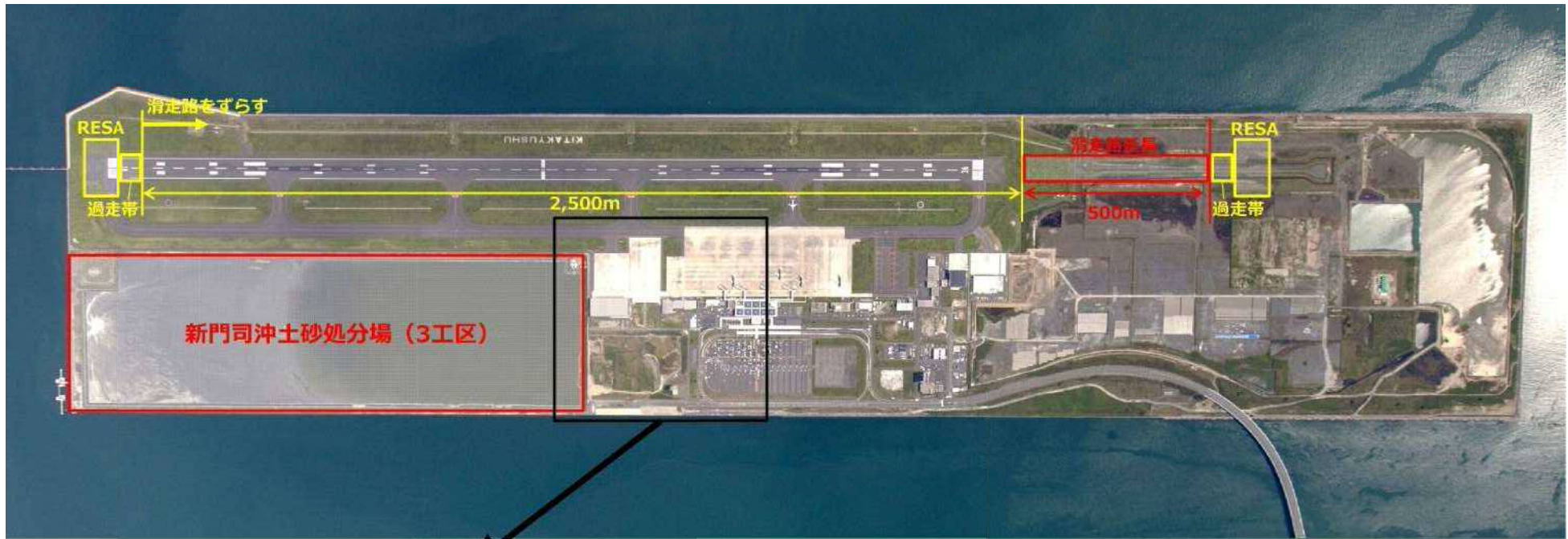
3工区は滑走路に近接し、将来的には海上アクセスも可能な条件を有する好立地であり、エプロンの拡充や産業集積、物流振興などの面で、北九州空港の大きな特長を生み出すことにもつながるため、将来的な土地活用が進むようご配慮をお願いします。

## 4 新型コロナウイルス感染症の影響を受けた航空業界への支援

新型コロナウイルス感染症により著しい影響を受けている航空業界に対して、ご支援をいただき感謝申し上げます。航空各社は、運航維持に懸命に努めているものの、業界を取り巻く環境は依然として厳しい状況にあります。引き続き、支援の継続をお願いするとともに、今後必要となる航空業界への支援についてもご協力をお願いします。



■ 北九州空港の機能拡充（イメージ図）



拡大図



【3,000m滑走路実現による整備効果の一例】



● 事業者からの声



物流事業者

24時間運用可能で貨物空港として発展する要素を兼ね備えているのに、滑走路が3,000m無いのが不思議です。



荷主

航空貨物は「時間がお金に換算される」の一言に集約されます。いかに早く運べるかが極めて重要であり、さらに輸送距離が短くなれば貨物の損傷リスクも低減します。



物流事業者

滑走路が3,000mあれば欧米直行便の運用が可能となり、荷主として非常にありがたい。九州発着の欧米向け貨物を北九州空港でかなり集荷できると思います。